

地域防災訓練

榎並小学校で

11月23日、榎並小学校の校庭において、地域防災訓練を行いました。城東消防署の指導により、心肺停止時の蘇生



法、AED（自動対外式除細動器）の応急手当法、三角巾による、骨折、裂傷の応急処置、消火器の初期操作などの講



習を実施し、同時にアルファ米（水またはお湯を注ぐだけで炊きあがる）のかやくご飯の炊き出しをしました。



大阪の都心部を横断する「上町断層」の地震では死者4万人以上、全壊、焼失する家屋97万棟の被害が想定されます。いつ起こるかわからない危機に備え、榎並小学校には、水、毛布、アルファ米が備蓄されています。

（災害救助部長 谷口順一郎さんのお話）

各町会防災リーダーをはじめ当日参加された方々は、危機意識を喚起する必要性を強く感じておられました。次回の防災訓練は更に多くの方々の参加を期待しています。

四校合同講演会

保護者と学校のいい関係をつくるには

2月7日、城東会館にて、四校PTA主催による合同講演会が開催されました。

講師は、大阪大学大学院教授小野田正利先生です。「悲鳴をあげる学校」の著者で有名な先生は、この日もご講演が重なっていたため、合同講演会では初めての午前中の講演となりました。以下、ご講演の主な内容です。最近「私は、Aさんと



小野田正利先生

仲が悪いから、私の子とAさんの子は別々のクラス編成にしてほしい」というような要求で学校が悩まされることが急増しています。一方学校は、相次ぐ教育改革や膨大な

事務処理に追われて子どもや保護者の声に耳を傾ける時間が少なくなっています。コミュニケーション不足で誤解やトラブルが発生したり、逆に苦情をおそれて過剰防衛になっている学校もあるようです。保護者が学校に対して要望を出すのは正当なことですが、子どもの問題に対して本当の解決につながる要望の出しかどう

うかを考えることが大切です。

また、学校側は、無理難題要求と決め付けず、子育てに悩んでいるからという受け止め方で解決の糸口とすることが必要です。

教育は、何よりも子どもの成長のためにあります。親と学校が協力する中で、子どもが置き去りにならないようにすることが大切です。

以上、実例をまじえながらのご講演は、非常に解りやすく1時間半の講演があつという間に終わってしまいました。

キッズプラザに行ってきました

榎並連合子ども会

榎並連合子ども会では2月1日にキッズプラザに行ってきました。

会員139名、幹事・委員41名が参加しました。

キッズプラザに到着したらみんなで弁当を食べました。そのあとたっぷり3時間あまり、子どもたちは、色々な体験コーナーやアスレチックコーナーで心ゆくまで友達どういで遊んでいました。

子ども達と楽しい時間を過ごし無事に行事を終えることのできた一日でした。



これからの予定

3月15日（日）6年生を送る会
（ボーリング大会）